

2009年度 トピックス

■2010/02/28

試合日程を2010年度に更新しました。中体連・高体連・東京陸協・日本陸連主催の大会についてはほとんどが決定だと思えます。あとは、各市町村単位で開催される小規模大会の日程が決まれば全てが出揃います。

2010年度のカレンダーにすべての試合を書き入れました。中高合わせて30試合以上になりそうです。毎年多くの試合に引率する中で、様々なことが起こります。ゼッケンを忘れた・・・雨でテントが濡れた・・・リレーでバトンを落とした・・・好記録が出た！・・・。喜んだり、悲しんだり、怒ったり・・・、本当に心臓に悪い半年間ですw。

2010年度はどんなシーズンになるのでしょうか。

■2010/01/12

新年明けましておめでとうございます。

昨年の11月後半から開始した準備期トレーニングは、ここまで順調に運んでいるように思います。中学1年生も、週3日の練習が4日になり、いよいよ桐朋陸上部の一員としての雰囲気が出てきました。たくさんあるクラブ活動から陸上競技を選んでくれたわけですが、昨シーズンはほとんど試合に出場できなかった選手も多くいました。また、現在は、試合も無く、トレーニングのみの単調な日々を過ごしていますから、まだ陸上競技の醍醐味は感じる事ができないかもしれません。しかし、この冬の練習を乗り越え来シーズンを迎え、目標に近づいていくことで、トレーニングの重要性を身体で理解できるはず。その時に、きつとアスリートとしての自覚が芽生えるのだと思います。

中学2年生は、来シーズンに向けて意欲的に練習に取り組んでいます。都選抜選手に選ばれている選手も多数おり、個人を含めリレーでの全国大会出場、そして都総体総合優勝を目指しています。達成可能な能力があっても、その能力が記録となって現れてくるには、日々のトレーニングの積み重ねがすべてです。

中学3年生は高校生の練習に参加する中で、レベルの違いやトレーニング負荷(量や強度)の違いに、ついていくのがやっとというところでしょうか。一般的な中学3年生は、高校入試に向けて練習は休んでいる時期だと思います。中学生の時には負けていた選手に高校1年生で追いつき、追い越すことができる大事な時期です。桐朋陸上部を支えている重要な時期と学年だと、毎年強く思います。

高校1年生は、昨シーズンを通して、高校生の競技レベルを肌で感じる事ができたことでしょう。その中で、すでに活躍できた選手もいましたが、多くの選手は力不足を感じたのではないのでしょうか。高校では学年別の競技会はほとんどありません。高校1年生でも3年生と勝負しなくてはならないのです。しかし、これまでの先輩達がそうであったように、地道に一步ずつ成長していくことで、確実に勝負できるレベルに達することができるはず。です。

高校2年生はいよいよ最後のシーズンを迎えることとなります。中学1年生から陸上競技を続けてきた選手は少なく、多くは途中から入部しました。それでもしっかりと最上級学年として、後輩達の見本となる取り組みをしていると思います。ここまでの努力が結果につながるように、我々指導者もサポートしなくてはなりません。

最後に高校3年生。現在は学校は無く(特別授業はありますが)、各自今週末に行われるセンター試験に向けて最後の追い込みをしている頃でしょう。桐朋生のほぼ全員が通過していかなければならない最大の試練ですが、きつとよりよい結果を出してくれると信じています。

先生方、保護者の皆様、OBの皆様、関係者の皆様など、多くの方々のお力添えをいただきながら、2010年も選手共々頑張っていきたいと思えます。

本年も、どうぞよろしく願いいたします。

桐朋中学高等学校陸上競技部・顧問一同

■2009/12/06

長らく更新が滞ってしまいました。一旦休んでしまうと、再び取り掛かることが難しくなります。トレーニングも同じ。まだまだ続く地道な練習では、集中力が切れたり、練習を休みたくなる日もあると思えます。そんな時グツとこらえて、歩みを止めずに頑張ることで、「習慣化」が生まれるのでしょうか(自戒を込めて)。

この間、高校では関東新人大会(佐伯、和泉選手が出場)、都高校駅伝、中学では支部対抗、都駅伝がありました。現在は考査前で練習はFreeとなっていますが、中学・高校ともに冬の練習に入っています。例年になく、選手達

のモチベーションが高いように感じます。

高校では佐伯選手(400m)と和泉選手(三段跳)が関東合宿に、秋鹿選手(棒高跳)が都合宿に、中学では新川選手(走高跳)が関東合宿に、新川選手と奥平選手(棒高跳)と塔下選手(走幅跳)が都合宿に選出されています。また、中学では新川・奥平・塔下・中野(ハードル)選手の4名が強化指定選手です。

来年も大きな成果が期待できると思います。

■2009/10/17

高校・全日本ユース選手権が終了しました。高2の和泉選手が三段跳に出場しました。全日本ユースとは、インターハイ、国体と並ぶ高校日本一を決定する全国大会で、ユースには高校1,2年生が該当します(ジュニアは大学1年、高校3年が該当)。出場するためには標準記録を突破するしかありません(ちなみに標準記録一覧は[こちら](#))。各種目とも標準記録が高く、出場することが非常に難しい大会です。三段跳は17名の出場でした。この時点でのランキングは最下位。

ここ数試合、1本目にファウルとなり、その後の試合展開が厳しくなっていく状況が続いていましたが、今回は1本目から踏み切り位置も許容範囲で、13m90を跳躍しました。記録的には自己ベストには遠いですが、周りの選手達も14mを跳ぶことがなかなかできません。2本目は風が向かい風になった影響もあり、13m85に低下。3本目を跳躍する時点で14m20~30を跳べばトップ8に残りそうな試合展開となっていました。3本目は助走からホップにかけても良い跳躍をしましたが、ステップの接地で潰れてしまい、失速するようなジャンプとなって14m12。順位は11位でした。全体的な記録も低く、自己ベストを更新できた選手はほとんどいないような試合でした。しかし、和泉選手にとっては自身の課題の再確認および今後の展望に大きな収穫のある試合だったように感じます。来年の飛躍を期待したいと思います。

■2009/10/15

【緊急連絡】中学・支部対抗について

先週開催されたアスリート記録会と同じく、今週末に行われる支部対抗についての連絡です。インフルエンザの流行が収まらず、現在も陸上競技部員で罹っている者もいるようです。支部対抗は秋の都大会という重要な試合ではありますが、選手の体調を第一に考え、体調の悪い者の出場は控えようと思います。体調に異変のない者も、朝必ず体温を測ってください。多くの選手が今大会が最後というわけではありませんので、決して無理をしないでください。なお、公欠者は既に連絡してありますが、もう一度前日のミーティングで確認してください。又、今回はゼッケン番号は65と66となっています。練習ノートにファイルしてありますが、各自確認してください。外堀は金曜と土曜は高校の試合引率のため不在ですから、宮下・有村先生にミーティングをお願いしてあります。土曜日の引率は宮下・有村先生。日曜日は有村・外堀です。

○場所 駒沢競技場

○集合時間 9時30分

3~4人は7時30頃には集合してもらいます。前日のミーティングで決めてください。

支部対抗タイムテーブルは[こちら](#)

大会要項は[こちら](#)

■2009/10/10

【緊急連絡】中学アスリート記録会について

インフルエンザの流行に伴い、中学1年生、2年生で学年閉鎖が実施されました。明日、明後日行われる中学生が出場する「アスリート記録会」について以下のようにしたいと思います。

インフルエンザに罹っている者は当然出場しませんが、インフルエンザと診断されていなくても、体調の悪い者(熱があるなど)は出場を控えてください。体調に全く異変がない者だけが出場することとします。

学年閉鎖に伴い、ミーティングができませんでした。要項は以下となります。

○場所 大井陸上競技場(東京モノレール 大井競馬場前下車 徒歩10分)

○集合時間 9時

○タイムテーブル http://www.sportsclick.jp/p/event/track/ooi-sports_06/schedule_2009.pdf

来週には修学旅行やクラスの日が行われます。今大会においては決して無理をしないでください。

■2009/09/30

高校・都新人が終了しました。

400m 佐伯 祐樹(高2) 49秒65 第3位 関東新人出場決定

800m 阿津 英明(高2) 1分59秒48 第8位

棒高跳 秋鹿 唯士(高1) 3m20 第4位

三段跳 和泉 理久(高2) 13m77(-0.5) 第3位 関東新人出場決定

400mR 和泉(高2)・佐伯(高2)・橋爪(高1)・高橋(高1) 43秒19 第7位

1600mR 橋爪(高1)・佐伯(高2)・阿津(高2)・荒井(高2) 3分24秒11 第6位

昨年同様、多くの選手が都新人に出場することができました。そんな中、佐伯選手・和泉選手が関東新人への出場権を獲得しました。それ以外でも、惜しいところで3位入賞を逃した選手もいます。全体的には不本意な結果と感じている選手がほとんどのようでした。結果だけを見ると、それほど悪くはないとも考えられますが、やはり選手一人ひとりの意識が高まってきたのだらうと思います。今年の試合はあと1,2回と駅伝のみとなりました。来年へ向けて、今年中に最大限到達できる記録まで自己を高めたいところです。

関東新人は10月31日、11月1日に千葉県総合スポーツセンターで開催されます。

■2009/09/22



中学・10ブロック大会が終了しました。この大会は10月中旬に行われる支部対抗大会の予選会となっています。支部対抗の選手は国立市での選抜メンバーとなっており、他校との競争に勝たなくてはなりません。ただ、国立市は陸上競技部のある中学校があまりないので、毎年ほぼ全選手が桐朋から出場しているのが現状です。そのため、支部対抗に向けて「国立市の予選会を勝ち上がって出場している」という意識が若干希薄になってしまいます。

今年も多くの選手が桐朋から難なく出場できそうです。

秋の都大会となる支部対抗では、各自が今年最高のパフォーマンスを発揮して、入賞・優勝目指しましょう。

男子総合優勝・男女総合3位でした。

結果の詳細は記録集にて



■2009/09/08

高校・都新人支部予選が終了しました。合計6種目で5支部をトップ通過。その他にも多く選手達が都新人への出場権を獲得しました。この秋の勢いは、来年へ向けての大事な通過点です。今年中にでき得る限り自己ベストを更新し

たいものです。都新人は2週間後から始まります。以下は優勝者。詳しくは記録集で。

共通200m 佐伯 祐樹(高2) 22"55(+0.6)
共通400m 佐伯 祐樹(高2) 50"05
共通800m 阿津 英明(高2) 2'00"60
共通走幅跳 和泉 理久(高2) 6m64(-0.5)
共通三段跳 和泉 理久(高2) 14m02(±0.0)
4×100mR 和泉(2)・佐伯(2)・橋爪(1)・高橋(1) 43"37

■2009/08/30

中学/高校・私学大会が終了しました。

中学男子 総合 第3位 (41.5点)

昨年は優勝できたのですが、今年は多くの取りこぼし、更にはケガのための欠場もあり3位となってしまいました。しかし、それはそれで実力です。中学3年生を中心に得点を重ねましたが、30点近く優勝の学習院には届きませんでした。残念でしたが、総合優勝は来年取り返しましょう。また、私学大会だけでなく、都総体での総合優勝を目指したいものです。それには確実に全国大会に出場する選手が2~3名以上は必要です。都総体、私学大会ともにチームとしての力が必要になるのは変わりませんが、都総体は絶対的なエースの必要性、私学大会は選手全員の底上げが重要になってきます。いずれにしても、我々は一步一步、日々努力し続けなければなりません。夢は広がるばかりです。以下は入賞選手。

中学2年100m 片岡 将 2位 12秒20(-1.2)
共通200m 唐澤 航平 4位 24秒18(+0.3)
共通110mH 樋口 尚史 2位 16秒90(-1.7)
共通110mH 中野 秀俊 6位 18秒08(-1.7)
共通走高跳 松本 僚 2位 1m74
共通走高跳 新川 将之 4位タイ 1m50
低学年400mR 片岡・中野・平野・中村 4位 49秒48
共通400mR 樋口・唐澤・松本・三浦 6位 47秒44

一方、高校生は専門種目以外に出場した選手がほとんどでした。入賞はマイルリレーのみとなりましたが、チームベストの3分25秒台で予選・決勝ともに走り第3位。今年の都新人で関東新人に出場するためには更なる記録更新が必要になるようです。また、来年は3分20秒以内のチームが数チームありそうです。去年の今頃の記録には優っているので、期待できます。



■2009/08/04

高校・インターハイが終了しました。

飯島 靖成選手(高3) 走幅跳 予選 7m05(+1.5) 19位

丸山 弘貴選手(高3) 三段跳 予選 14m87(+0.5) 決勝 14m47(+0.8)

丸山弘貴選手、見事全国大会で6位入賞！桐朋では25年ぶりの快挙達成。

書きたいことがたくさんありましたので、特集のページを作りました。トップページのバナーをごらんください。
([こちら](#)からもリンクしておきます。)

■2009/08/03

中学・都総体が終了しました。通信大会が終わり、改めて全国大会への出場するという気持ちを持ち直し挑みました。期待がかかるのは松本選手の走高跳と、共通4×100mRです。大会初日に走高跳が行われましたが、地域別大会で1m80をクリアして以降、身体が流れる跳躍が改善できませんでした。記録は1m70。悔しい結果でした。共通リレーでは、強風の影響で44秒台で走っているチームも45秒かかっています。一方桐朋のチームベストは45秒5でしたが、45秒31でした。これなら明日の決勝では44秒6〜7は狙えると思っていました。しかし、決勝ではパトンミスで痛恨の8位。パトンミスは何度見ても現実を受け入れるのに時間がかかります。何が起ったのか、頭が真っ白になってしまいます。残念ながら今年は全国大会に出場することはできませんでしたが、来年はきっと行ってくれることでしょう。



■2009/07/15

中学・通信大会が終了しました。

共通男子走高跳 松本 僚(中3) 1m76 第3位

共通男子4×100mR 樋口(3)・唐澤(3)・松本(3)・河野(3) 45秒54 第7位

今大会は関東・全国大会の予選となっています。年度当初、中学陸上競技部の目標は全国大会出場と掲げていました。走高跳の松本選手は1m85の全国大会参加標準記録には及びませんが、3位入賞することができました。リレーに関しては、決勝には残ったものの、目標の44秒台には到達することができず、悔しい7位でした。その他の選手に関しては、総じて力を出し切れなかった者が多かったようです。スプリント系種目に出場した選手達ほぼ全員、スタートに課題が見受けられます。しっかりとブロックを「押す」という感覚が大事です。各自が練習の中でしっかり意識して取り組もう。

関東・全国へのチャンスはあと一回、7月25、26に行われる都総体のみです。自分(達)を信じて、強い気持ちで都総体には臨んで欲しいと思います。

■2009/07/15

共通男子棒高跳 渡辺敬康(高3) 4m50 桐朋高校タイ記録

高校・都選抜一年生大会が行われました。IHに出場する飯島・丸山両選手を含む選手達が出場しました。その中でも高校3年生渡辺敬康選手が棒高跳で「意地の4m50クリア」となりました。これは桐朋高校タイ記録です。南関東大会で惜しくも7位に終わり、IH出場が叶わなかった時から気持ちの切り替えは大変だったと思いますが、集中力を切らさず練習してきた結果、見事自己ベスト更新となりました。本当におめでとう！同じく高3の福地英明選手も200mで記録更新を目指しましたが、残念ながら自己ベストとはなりませんでしたが、ここまでよく頑張ったと思います。IHに出場する高3が残っていますが、これからは高2、高1が陸上競技部を支えていかなければなりません。今後に期待し

たいと思います。

■ 2009/07/04

高校南関東大会が終了しました。以下は大会の報告をしたいと思います。

大会初日、棒高跳から2009年度高校南関東大会が始まりました。この時点で残念だったのは高1から連続して本大会に出場していた上野隆治選手が故障により出場できないことでした。なんとかこの大会までに治癒しようと最大限の努力をしてきましたが完治することはなく、棄権せざるを得ない状況でした。残された渡辺選手と上法選手には、彼の方まで頑張ってもらいたいです。

試技は4m00から開始されました。上法選手はこの高さからスタート。自己ベストが4m00の彼にとっては厳しい状況です。1回目、2回目ともに失敗しました。3回目、身体は十分上がりましたが残念ながら失敗。最終学年にしてやっと出場できた南関東大会でしたが、悔しい結果となりました。渡辺選手は4m30から試技開始。1回目はバーをクリアする体勢までもっていきませんが、2回目は余裕をもってクリア。次は4m40です。近年南関東からIHに行くには4m50をクリアすると共に、できるだけ失敗試技を少なくする必要があります。4m30を一度失敗しているため、この高さは絶対に1回でクリアしたいところでしたが、見事1回でクリア。この時点で試技差を含め6位に位置していました。次は勝負の4m50です。この高さを1回でクリアすれば、IHの可能性が高まります。渡辺選手自身、誰よりもIHへの気持ちは強い選手でしたが、残念ながら3回とも失敗となりました。結果的には7位となり、6位はやはり4m50でした。



棒高跳の試技が終了すると今度はすぐに走幅跳がはじまりました。出場する飯島選手は、高校から陸上部に入部し、高校1年の秋には関東新人にも出場しています。しかし、高校2年生の時には都大会・都新人ともにケガのため満足な跳躍ができず、こまめに悔しい思いをしてきた選手でもあります。南関東のレベル自体は例年と同じか、若干高めです。しかし、彼が本来の力を出してくれれば問題なく通過できると思っていました。結果的には7m01で6位となり危ない状況でしたが、身体の動き自体は良くはなく、後で本人に聞いても、あまり身体が動かなかったとのことでした。何はともあれ、IH出場権を獲得したのは素晴らしいことです。IHでは持てる力のすべてを出し切ってくれればと思います。

飯島選手は6本目の跳躍が終了して休む間もなく、4×100m出場のため2走の出走位置へ移動。その間10分もありませんでした。4×100mリレーに関してはこれまで次々と桐朋高校記録を更新してきました。ここまでのチームベストは41秒91です。桐朋初の41秒台。しかし、これでもIH出場には届かないことは全員が理解していたし、目標は41秒5〜6。決勝進出には3組2着+2となります。陸上競技の中でリレーのスタート前緊張する瞬間はありません。各チームとも一斉にスタートしました。選手達は持てる力をすべてを出して駆け抜けました。順位は組で3着となり、タイムは41秒73。目標タイムには届きませんでしたが、このタイムでプラスで拾われるか微妙なところで、5〜10分程度間が空き、放送が流れました。残念ながら全体9位のタイムで決勝に進出することはできませんでした。その差0.02秒でした。悔しすぎて、しばらく現実を受け入れることが難しい状況でした。

3日目。この日は走高跳から始まります。出場する和泉選手は4×100mRの1走をつとめ、この走高跳が終わっても明日は三段跳を控えています。最もハードな日程をこなす選手です。自己ベストは昨年出した1m92。IHに行くには1m95以上が必要となります。試技は1m85からスタートしました。この高さは1回目でクリア。次の1m90は3回目でクリア。次は勝負の1m95です。1回目、惜しくも失敗。2回目はうまく踏み切れません。3回目、身体は上がりましたが若干頂点がズレたため失敗。たればはありますが・・・走高跳って難しいなあと思いました。

その後すぐに4×400mリレーとなります。チームベストは都大会予選の3分19秒72。しかし、本大会は3走のオーダーを丸山選手から阿津選手に切り替えて臨みます。決勝進出には3組2着+2となります。1走の清水選手はトップグループで2走にバトンパス。ラップは49秒台です。2走の福地選手もラップ48秒台で周ってきました。3走の阿津選手は最もプレッシャーがかかったかもしれませんが、ラップ49秒台でアンカー佐伯選手にバトンパス。アンカー佐伯選手はチームの中で最も速い48秒前半でゴールしました。しかし、組で5着。タイムは3分16秒33！タイムにはびっくりしましたが、残念ながらこの時点で決勝へ進めないことが決定しました。ところがこの後とんでもないことがおこりました。予選3組終わってみれば、桐朋のタイムは全体で5位。要するに、他の組のトップよりも速かったということです。この悔しさをどこにぶつけて良いのかもわからず、ただ呆然とするのみでした。



大会最終日は、三段跳に丸山選手と和泉選手が出場します。丸山選手はキャプテンとしてチームをまとめつつ、自らも結果を残し続けてきました。今大会でも最もIHに近い選手でもあります。しかし、不安要素もありました。それは都大会の際痛めた右足踵です。都大会が終わってからここまで満足な跳躍練習はできず、不安は大きかったと思います。一方和泉選手ですが、彼は専門は走高跳でしたが、ほぼぶつつ本番で都大会に出場したら14mを越えてきた選手です。2名ともに期待がかかりました。

踵に痛みを抱えた丸山選手はできるだけ早い段階で14m後半を跳んで欲しいところでしたが、1回目14m62を跳び、有利な展開になりました。2回目以降、徐々に記録は低下していき、5回目以降は試技をパスしました。

和泉選手は1回目・2回目とも跳躍にならず、追い込まれました。3回目、起死回生の14m31のジャンプ。この時点で6位に浮上しました。

結果的には丸山選手5位、和泉選手8位。2人目のIH出場者が出ました。

2009年度の南関東大会は、単に記録や順位から感じる嬉しさ・悔しさだけではなく、これまでの長い間トレーニングを積んできた末の選手達の成長や、選手それぞれの挫折、我々指導者のあり方、桐朋陸上競技部のあり方など、多くのことを考えさせてくれる機会を与えてくれました。選手に感謝したいと思います。

■2009/06/14

中学・地域別大会の2.3日目が終了しました。中学3年生を中心に、多くの選手達が7月に行われる通信大会・都総体の出場権を獲得しました。多摩地区東部において、以下の選手達が入賞しました。詳しくは記録集にて。

2年100m 片岡 将 12"00(+3.4) 第5位
3年100m 唐澤 航平 11"94(-0.8) 第8位
共通200m 唐澤 航平 23"90(+0.7) 第8位
共通110mH 中野 秀俊 16"36(+3.2) 第3位
共通110mH 樋口 尚史 16"42(+1.9) 第4位
共通走幅跳 松本 僚 5m59cm(+0.2) 第8位
共通4種競技 松本 僚 2189点 第2位
低学年400mR 片岡・中野・真壁・中村 49"79 第1位
共通400mR 樋口・唐澤・松本・河野 45"54 第2位

中でも、共通4種競技に出場した松本僚選手(中3)は、走高跳で1m80cmをクリアして、総合でも2189点を獲得しました。以前は中学生の混成競技は3種競技でしたが、近年4種競技に変更になりました。2006年に丸山選手が2088点を獲得していますが、それを100点更新する松本選手の2189点を桐朋中学記録としたいと思います(映像集に動画あり)。

次は通信大会・都総体へ向け、更にはその先の関東大会・全国大会を目指しトレーニングしていきたいと思います。

■2009/06/07

高校・支部学年別大会が終了しました。今年は多くの高校3年生が南関東に出場しますが、一方では今回の大会が(一応の)引退試合となった選手達があります。それぞれで陸上競技に取り組んだ意味・目的は異なると思いますが、それでもここまで努力してきたことは大いに評価できることです。しかも、多くの選手が自己ベストを出してくれたことが何よりも嬉しいことでした。ここから大学受験に向けて頑張ってくださいと思います。

南関東を控え、集中力を切らすことなくトレーニングに励んでいる選手達ですが、そんな中、4×100mRで再び桐朋高校新記録を出してくれました(映像集に動画あり)。記録は41秒91。桐朋高校陸上競技部初の41秒台です。しかし、この記録でもIHには手が届かないでしょう(背中は見えています!)。このチャンスは絶対にモノにしたい!

リレーに関しては400mRも1600mRも調子が上がってきています。しかし、フィールド陣にケガ人が続出中。高校3年生にとっては、負ければ終わり、次回はありません。万全の状態です試合に臨めることを祈っています!

■2009/05/31

中学・高校の江東区春季記録会が終了しました。中学生は、これまでに試合で出場したことのない種目を中心に出場しました。様々な種目に挑戦することで選手としての幅を広げると共に、自らの可能性を見出してほしいと思います。記録的には突出したものはありませんでしたが、今後につながる結果ではありました。

高校生は、南関東大会を控えた選手の調整試合として、8名のみが出場しました。100mと200mのみの出場となりましたが、全員が自己新を出し、良い弾みとなりました。

写真撮影をしましたが、途中、豪雨のため撮影できなかった選手がいます。申し訳ない。

■2009/05/28

新入生へ向けてのページを2009年度版に更新しました。本日で中間考査が終了し、明日からは中学一年生のクラブ登録が許可されます。今年は高校生が大活躍していますが、すべては陸上競技部に入部してから始まります。一人でも多くの生徒が陸上競技に興味を持ってくれることを願います。

■2009/05/24

大変遅くなりましたが、2008年度の桐朋高校陸上競技部卒業生送別会の模様を掲載しました(トップページのバナナ)。先日の高校総体も応援に来てくれるなど、頼もしいOB達です。卒業後もそれぞれの道で頑張っている姿を見て安心しました。

5/31(日)には江東区主催の記録会に出場します。中学生中心ですが、高校生の一部も出場します。

※メールの設定を行いました。何かありましたら連絡ください。

■2009/05/17

高校・都総体が終了しました。

祝 男子総合第2位(60.5点)

以下の選手達が南関東大会への出場権を獲得しました。

- 400m 佐伯 祐樹(高2) 第4位 50秒77(予選49秒45)
- 4×100mR 和泉理久(高2) 飯島靖成(高3) 福地英明(高3) 佐伯祐樹(高2)
第2位 42秒01 桐朋高校新記録樹立
- 4×400mR 清水稔(高3) 福地英明(高3) 阿津英明(高2) 佐伯祐樹(高2)
第3位 3分21秒05(予選3分19秒72)
- 走高跳 和泉 理久(高2) 第4位 1m91cm
- 棒高跳 渡辺 敬康(高3) 第2位 4m40cm
上野 隆治(高3) 第3位 4m30cm
上法 大樹(高3) 第6位 4m00cm
- 走幅跳 飯島 靖成(高3) 第3位 7m09cm(+0.5)
- 三段跳 丸山 弘貴(高3) 第1位 14m57cm(+1.4) 桐朋高校新記録樹立
和泉 理久(高2) 第3位 14m09cm(2.9)

やってくれました！見事な戦いぶりでした。昨年度から、2009年度は多くの選手が南関東大会へ出場する実力があると信じていましたが、その通りの結果となりました。ほぼ取りこぼしは無かったと思われます。総合でも第2位という結果は、なかなか成しえることではありません。振り返れば昨年度の都新人では不運なアクシデントや、惜しくも関東大会に出場できなかったりと、ここまでの道のりは険しいものでした。選手個人個人では、様々な壁を乗り越えて辿り着いた今回の結果です。本当にお疲れ様でした。

選手諸君！！ 為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成さぬは人の為さぬなりけり



■2009/05/07

更新が滞ってしまいましたので、ここまでの試合の報告を。

高校は都総体までに、春季支部記録会・第一回強化記録会・支部予選会の3試合を行いました。いよいよ今週末から都総体が始まります。トラック系では100m、200m、400m、800m、いずれも2名が都総体に出場します。フィールド系では走高跳が1名、棒高跳が3名、走幅跳が1名、三段跳が2名。槍投げが1名となります。その中でも高3のエース・福地選手が、支部予選会の200mで向かい風2.5m/sの中、22秒39で走り、トップ通過。桐朋記録にもあと少しとなりました。それ以外にも支部予選会でトップ通過した選手は、400mの佐伯選手(51秒53)、走幅跳の飯島選手(6m88cm)、三段跳の丸山選手(14m11cm)、槍投げの野呂選手(50m39 -またまた桐朋新-)、オープンではありますが棒高跳の上野選手(4m20cm)、400mR(45秒22)、1600mR(3分27秒39)となりました。

都総体では、男子総合で上位を狙うことができる選手達が揃っており、更には南関東、そしてIHに出場する実力も十分あります。

中学は現在までに八王子T&Fという記録会に出場しました。出場種目は100mと1500mとリレーのみでしたが、ほとんどの選手が自己新を更新しました。400mRではシーズン初戦としてはまずまずの45秒52。全国大会出場にはあと1秒近く縮めたいところです。

■2009/04/05

今季初戦となる高校・支部記録会が終了しました。

野呂 祥選手(高3) 槍投げ 47m38cm 桐朋新記録樹立

自身2度目の桐朋高校新記録記録更新となりました。おめでとう！その他の種目では、400mR(43秒07)、1600mR(3分22秒54)でまずまずの記録でした。詳細は記録集で。